

Caravan ticket

キ ャ ラ バ ン

チ ケ ッ ト

written by yu-ki

何となく 4137km

ヒッチハイクして

日本縦断

東国原秀夫 宮崎県知事も絶賛

『この本をどげんとせんといかん!!』

ノルウェーの 40 代女性を中心に話題騒然

caravan ticket / hitchhike story [free&crime]

free & crime

～4日目 ついに逮捕！？ 俺達 vs セコム～



ゆき



VV



セコム『コラっ、こんな所で何をしているんだ？』

ゆ〜き『いや自分探しの旅をしていて、お金がなくて。。。』

セコム『そ、そうか、自分探しの旅か。おじさんも若い頃はな。。。』

caravan ticket / hitchhike story [free&crime]

ニシ夫人『もう、11時よ！ 起きなさ〜い』

ふと、ニシ夫人の声に目が覚めると、そこには天井があったんよね。

ゆ〜き『そうだ、俺はニシ家に泊らせてもらったんだ！』

窓のカーテンからポカポカした日差しがこぼれてくる。

壁にかかっていた時計は11時を過ぎようとしていたよね。

あまりに快適空間だったので、寝すぎてしまったわ。

ニシ夫人『朝ごはんが冷めちゃうから、早く食べてね』

なんと、幸せな言葉か。

今日は、デバ地下に行かなくてすむなんて、

そ、そんなの至福の極みでござる〜。

二人『いただきまっ〜す』

ソノ『うまい、うま過ぎる！ まるでサンジがギンに渡したスープか！？』

※ワンピース参照

ゆ〜き『日本に五つ星ホテルなんてあったか！？ いや、ここにある。』

ニシ夫人『あんた達の言う事は全く理解に苦しむけど、

喜んでもらったみたいで良かったよ。』

さすが夫婦、俺達の無価値なボケに対するツッコミの技術は天下一品。

そんな自分の息子の様に俺達を扱ってくれたニシ夫婦。

でもズットお世話になるワケにはいかない。

別れのトキが迫る。

ソノ『それじゃあ、僕らそろそろ旅立ちます。

ホンっつとお世話になりました。ありがとうございました。』

ニシ夫人『あら、もう行っちゃうの?? 寂しくなるねえ。

何のお構いも出来ませんでしたけど。』

ゆ〜き『いえ、めちゃめちゃお世話になりました。

ご飯もおいしかったです。ありがとうございました。』

そんときに、ピーーーンとあるコトを思いだしたんよね。

ゆ〜き『あ、そうだ、もし、可能だったらコレ書いてもらえませんか?』

ニシ夫人『何これ??』

コレってば「**貧乏人の最後の砦** 100円SHOP ダイソー」

で買った**日本地図**。

周知の通り、ワタクシは**学が無い**もので、地理関係も

良くわからなかった為、地図を持ってきていたんだけどさ。

も一つ目的があって。

「**地図の裏側に旅で出会った人のメッセージ**を書いてもらう」

って目的があったんよ。この出会いに

書いてもらわぬワケにはいかなかったよね。

隣の地図、道中100円というコストを
大幅に超えるパフォーマンスを見せる



caravan ticket / hitchhike story [free&crime]

ソノ『是非、記念に書いてもらえると嬉しいです。』

ゆ〜き『コメントは何でも良いです。』

ニシ夫人『あたし、こういうの苦手なんだよなあ〜。

本当に何でもいいのね??』

ソノ『もちろんです。』

ニシ夫人『じゃあ書くわよ。ちょっと待ってね。』

キュキュ・・・



実際に書いてもらったコメント
牛スタンプはその後の
別沖縄旅行で押したやつ
なんで関係無し!! (笑)



こうして俺達の『Daiso Dream Map』（笑）の

記念すべき一筆目がスタートしたんよ。

ニシ夫人『これからも頑張るね。気をつけて行くのよ！！』

二人『ありがとうございます～～す。おじゃましました！！』

こうして、俺達は最高のツッコミ技術を持つ、

ニシ夫妻のもとを後にしたんよね。

ゆ～き『ホント、最高の人達だったなあ。』

ソノ『だね。感謝感激だよ～。』

駅に向かう途中でも、感謝の気持ちはズッと続いていたね。

人の優しさって、何とも言えない心地よさがあるよなあって考えててさ。

俺達はニシ夫妻に何もお返しが出来ていないワケで・・・

見返りなく、家に泊めてくれたり、お好み焼きをおごってくれたり。

極端な言い方すれば、『優しくしなくても、何も問題無い』じゃん

それでも、泊めてくれたのは、もちろん昔のよしみもあるけど、

結局は純粹な人の優しさだと思うよなあ。

泊めてくれたコトもご飯奢ってくれたコトも嬉しいけど、

『困った人を助けたい。楽しい思い出を作ってやりたい。』

そういった、**優しさの気持ち**が一番嬉しかったなあ

今後、この考え方は旅の重要なテーマになってくんだけど、

それはもうちょい後の話やんね。

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

そうこうしているうちに駅に到着。

今日も天気は快晴で、めっちゃくっそアツいし。

セミはあちらこちらで合唱しちやってるし。

(セミ、日々の音量下げれば、もうちょい長生き出来ると思うんだけどな)

ゆ〜き『あっちー、もうクーラー持ち歩くか！！』

ゾノ『セミもうるせーな、山とかでやれ！！』

とか何とか、駅の日陰で待っていると、

俺らが支えにしている JR 山陽本線様が到着。(笑)



「ぶしゅーっつ」

電車のドアが開く。

ソノ『あ～、マジ涼しいわ～』

ゆ～き『ね、席も空いてて助かりまする。』

広島から下関までは 4 時間ぐらいあるんだけど

途中、岩国から徳山の間は二線路あってさ。

JR 山陽本線と JR 岩徳線の二択なんだよね。

そのトキこそ携帯があったらルート検索出来たんだけど、無いもんで。

ソノ『電車のルートはどうしょっか？』

ゆ～き『今日、九州入りしたいなあ。早い方が良いよね。』

ソノ『だね。地図で見ると、この岩徳線の方が**距離短かそう**だな。』

ゆ～き『じゃあそっちにしよう。おっけ、おっけー♪ もーまんたい!!!』

的な感じでルートを決めてさ。(笑)

あとあと調べてみると。。。

JR 山陽本線 1 時間ぐらいかかる

JR 岩徳線 1 時間 30 分ぐらいかかる

わざわざ乗り換えして、遅いんかいて思ったね。(笑)

さてさて今日の電車内トークはいつもの馬鹿トークとは違って

『お互いのムカツク所』

このテーマってなかなか難しくてさ。

良く分からないけど、何か日本人って**本音**で話さないじゃん！？

でも旅を続けていく中で、この話は必要だと思ったんよね。

俺達二人とも馬鹿でめっちゃ**気の合う**コトは間違いないんだけど、

俺は割と**神経質**で**チキン**だから細かいトコも気になったりして、

ソノは**度胸**があって、**大ざっぱ**なトコもあるから、

そこらへんでズれたりね。

例えば、

寝場所は**最高に安全な場所**を探したい！と俺は思うんだけど、

ソノはどこでも寝れるので、寝場所選定のトキは少しぶつかるんよね。

そんな中でポイントとして挙がった項目が、

『行きたい場所、やりたいコトがズレた場合、どっちが譲るか？』

例えば、

名古屋城を見にいったトキ、ソノは外から見るだけで満足なんだけど、

俺は実際に中も散策して見たいって気持ちがあるんよね。

加えて絵も書きたいと思っちゃう。

でもソノは絵書かないから、その間暇になっちゃうさ。

そういった場合に**どう解決案を考える**かってのが大切で。

けっこ一俺は好奇心大盛で頑固なトコがあるから、
ゾノを困らせたコトもあったんよね。

と言うワケで結論としては**下記2点を大切に**しよってなった。

- ・お互いの**個性**をまず認める
- ・問題ゴトはちゃんと話し合っ**て相手の気持ちを考えながら**決める

小さいコトだけど、**24時間ほぼ一緒にいる**ワケだから、

ちょっとしたズレがストレスに繋がったりするんよね。

こういった場を旅の最初の方で出来たのは良かったなあと感じるんよね。

正直に話せるのもゾノだからこそだとも思ったよ。

『誰かと長時間一緒にいて、互いの価値観と向き合える』

ってのはすごい大切。そういう繋がりがりって一生モノだよね。

恥ずかしくて、照れくさい部分はるけどさ。

挿絵間違えた



ガタンゴトン。

電車は本州と九州を繋ぐ『関門トンネル』に差し掛かる。

トンネルの名前の由来は

「本州の下関」と「九州の門司」を結ぶから

それぞれの名前を取って関門トンネルと呼ぶとか呼ばないとか。

横浜の始発で来れる一番遠いトコがここの下関ら辺なんよね。

20時間ぐらい乗り続けるとここら辺まで一日で来るコトが出来る。

青春18切符の一日分の金額で考えると、

ここまで2100円で来れるってコトやね。

めっちゃ安いわ、実際やったら超辛くてエコノミー症候群になりそう。(笑)

俺、電車で本州を離脱するのは、初めてだったから、

ちょっとワクワクしたなあ。

ゆ〜き『ソノさん！ この調子で**沖縄**っすね！』

ソノ『ですね。気持ち**シークァーサー**の香りがしてきました(笑)』

ってな感じで、二人ともテンション上がりめでき。

本州から九州へ移動している時間はトンネル内だったから、

外は見えなかったけど、

「確実に**沖縄**に近づいているぜ」って感覚が嬉しかったよ！！

既に頭ん中ではHYのホワイトビーチが流れ始めてた！！(笑)

そして、関門トンネルを越えて、九州大陸到着。

ゆ〜き『ひゃっほう！ 遂に九州進出！！』

ソノ『すごいね、よく無計画ながらここまで来たもんだ（笑）

博多着いたら、真っ先にとんこつラーメン食べたいね〜！』

ゆ〜き『だね、食べよう。替え玉**3つ頼も☆**（笑）』

とりあえず、らーめんと言えば**博多っぽ**だったので博多へ向かう。（笑）

門司から博多までは1時間ぐらいで着くんよね。

路線の名前も変わり「**鹿児島本線**」という名前になっていたわ。

博多駅に着いた頃には夜8時ぐらいになっていて、

早速、本場の博多とんこつを食べるコトにした。

が、本場の博多とんこつは何が有名なのか分からなかったので、

唯一、東京にチェーン店があって

名前を知っている「**一蘭**」というらーめん屋に入るコトにした。（笑）



↑ 東京でもよく食う、めっちゃうまらーめん屋

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

一蘭を知っている人なら分かると思うけど、
この店はけっこう特殊で、基本的にテーブル席はなくて（ある店も有）
席はカウンターのみで、

しかも隣の人との「仕切り」がそれぞれ付いているんよね。

らーめんに超集中出来る空間がそこにあるってコト。

店の中は静けさに満ち溢れ、**麵をすする音のみ**が響き渡る。

そこにはらーめんとホンキで向き合う男達の戦いがそこにある。

吉野家コピペ風に言うと（知らない人ははてなキーワードで検索）

「一蘭ってのはな、もっと殺伐としてるべきなんだよ。

カウンターのみで隣に座った奴といつ喧嘩が始まってもおかしくない、

刺すか刺されるか、そんな雰囲気がいいんじゃないか。

女子供は、すっこんでろ。」と言った雰囲気。（笑）

もちろん俺達も**最高に集中力を高め**、らーめんをすする。

ソノ『うまいっ、やっぱり本場の博多とんこつは一味違うなあ。』

ゆ〜き『ですなあ、ここまで来て本当に良かった。』

とか言いながら、ホントは味の違い全然分からないし（笑）、

そんな舌が肥えているワケでも無いので、

にわか博多とんこつファンであるコトは明白だったよね。（笑）

でも、苦勞してここまで来た分、

何か「**超旨え！！！！**」って感じがしたなあ。

一通り、替え玉（結局1玉）も頼んで、満喫したトコで、
毎日の難題である「今日の寝床検索タイム」の時間がやってきた。（笑）

ソノ『ケケさん、今日の寝床は。。。』

ゆ〜き『モッフッフ。ソノさん！ ここは俺に任せるけん』

と今度はエセ博多弁を披露した俺は秘策を残していた。

ここに到着する頃は過酷状況になると想定していたんさ。

大学のテニスサークルぶれめんで知り合った

”福岡出身のアイちゃん”と言うトモダチがいたんよ。

しかも休み中は福岡に戻っているそうさ。

”アイちゃん”は女の子で非常に面白い良い子だが、

前代未聞のやんちゃさを秘めていて、

ワインのコルクを果物ナイフで開けようとして、失敗し、脈を切り、

大出血したコトにより周囲からは

”フリーダムアイ”という名を欲しいままにしていた。（笑）

この展開を

『前にこの文章見たなあ。コピペで省力化??』

と感じた方、違います。

それはきっと前世のデジャブです。



caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

そんなアイちゃんのご自宅様へ泊まるコトが出来ればと
淡い期待を持ちながら、俺はメモってたケータイ番号に電話してみた。
もちろんケータイは持たないルールだったから、公衆電話ボックスから。
10円玉をいっぱい用意していざ電話をかける。

トゥルルル。ガチャ

ゆ～き『あ、ゆ～きです』

アイちゃん『久しぶり、どうしたの?』

ゆ～き『あのさ、突然だけど今、福岡いるんだよ!』

アイちゃん『え、マジで、私も福岡だよ～!』

ゆ～き『お～それは偶然。偶然ついでにもし可能でしたら、

アイちゃんの**豪華かつ洗練されたキャッチーなお住まいに**
泊めて頂く～なんて事は出来ませんか?』

アイちゃん『え～、実家だから難しいよ～』

ゆ～き『そこを何とか。。。』

アイちゃん『厳しいよ～』

ゆ～き『。。。』

アイちゃん『無理だよ～』

ゆ～き『。。。』

アイちゃん『。。。』

ゆ～き『じゃ、じゃあまた。。。』

アイちゃん『じゃあね～』

ガチャ、、、 ツーっ、 ツーっ

ソノ『どうだった？』

ゆ〜き『やっぱり男は黙って野宿ぜよ！！（泣）』

俺の「友人宅宿泊ツアー作戦」は、二度目の失敗に帰したんよね。（笑）
んだもんで、ソノと寝やすそうな場所を探しに行くコトにしたわ。

やっぱり、栄えている街だと距離が離れたトコじゃないと
寝やすそうな場所が無いんだよなあ。

30分ぐらい歩いていると、眠り心地の良さそうな（笑）ゲーセンを発見。

ゆ〜き『閉店後、あそこのタイルが寝やすそうだな。』

とか思ってる自分に寂しさを感じたが、

閉店の1時まで、あと30分ぐらいだったので、

ゲーセン内で閉店を待つコトにしたんよね。

当時ハマってた（今もそうだけど）capcon VS SNK2でソノとバトル。

アイツのキャミィ、ブランカ、サガットは恐ろしく屈強であったが、

俺のユリ超アッパー⇒ダボーの前には歯が立たなかったとか、

そうじゃなかったとか。（笑）

（capcon VS SNK2 が分からん人は google 様で勉強してくれ）

そんな中、待ちに待った閉店が訪れ、

俺たちは店の前に寝袋を敷いたんよね。

予想通り、寝心地の良さがあったわ。（笑）

ちょっとした屋根も付いているので、雨が降っても、もーまんたい。

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

ゆ～き『今日も疲れた、らーめんうまかったわ！』

ソノ『ですね。明日は沖縄に着けるかねえ！？』

ゆ～き『だよなあ、早ければ明日だよね。

船でどのくらいかかるんだろう？』

ソノ『2、3時間で着いたら良いよね～』

とか、明日への希望を語りながら、

可愛い二人はまるで**子猫の様に**スヤスヤ眠りについたんよね。

そんな時、ガラガラッと店から人が出てくる音がしてさ。

バイトのスタッフが出てきた様で。俺らを見るなり一言。

女A『コレ何？』

コレ？ 英語で this。モノ呼ばわりだと！ ふざけんな！！ と思いながらも、
ここは仏の様な心で見逃してあげよう。

むしろ見逃して下さいませと祈ったよね。（笑）

するともう一人の女が、

女B『やばいよ～。やばいよ～（出川風）。セコム呼ぼうよ～』

何だと、俺たちが何をしたんだ！

こんなに可愛く寝袋に包まれているのに。

まるで赤子を聖母が包んでいる様な。。。

女 A 『呼ぼう、呼ぼう』

ヒートアップしていくバイトスタッフ。

地味にヤバイぞこれはと思ったよね。

セコムに捕まり、警察に突き出され、

不法侵入 兼 未許可睡眠罪とかで、訴えられんのかなあ。

ここは冷静に考えろ俺。セコムが来たらどうなるんだ？

俺はイマージンした。

セコム 『コラっ、こんな所で何をしているんだ？』

ゆ〜き 『いや自分探しの旅をしていて、お金がなくて。。。』

セコム 『そ、そうか、自分探しの旅か。おじさんも若い頃はな。。。』

とか何とかで**若い頃のやんちゃ話**に花がさくハズ。

例えセコムが来たとしても、**同じ人間**。

そして俺たちは分り合えるハズ。

むしろ

ゆ〜き 『俺が一晩中このゲーセンを守ってみせます。』

セコム 『感動した。君、是非わが社に来てくれないか！？』

私の社長の席を譲る気君の様な若者を探していたんだ。』

これが後の**セコム社長誕生の瞬間**である。

的な正社員雇用ストーリー展開もありうるのでは。これはおいしい。



caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

な～んて得意の妄想劇を考えていたら、
女の子達は俺たちに飽きたらしく、
気づいたら帰宅されていらっしやいました。

俺とセコムの熱いパッションを返せコンチクショウ！
(そつとしといてくれて本当にありがとう。)

気付けば、この喧騒のさなか**ゾノは寝たまんま**だったよ。

ゆ～き『さすが、**ビッグゾノ**。。。』

※ビッグゾノ：大物という意味を込めて、たまにこう呼ぶ

静けさを取り戻した暗闇の中で

ゆ～き『やっと九州まで来た。明日は船に飛び乗り沖縄目指すぞ！』
と誓い、明日を楽しみに待ち望んだんよね。

そして旅4日目が過ぎていった。

明日は勝負のトキ！！



caravan ticket / hitchhike story [free&crime]

this story continues

